

新情勢下における世界の天然ガス・LNG 市場の行方

(財) 日本エネルギー経済研究所
理事 戦略・産業ユニット総括
小山 堅

2011 年に入ってから、国際エネルギー市場はまさに激動の時期を迎え、世界全体を大きく揺さぶるような事象がエネルギー問題と密接にリンクした形で強力な影響力を及ぼし続けている、といっても過言ではない。その激動をもたらしている第 1 の要因は、中東・北アフリカ情勢の緊迫化とそれに伴う原油価格の高騰であり、第 2 の要因は、東日本大震災と福島第 1 原子力発電所問題である。特に 3 月以降は、世界の主要なエネルギー情勢に関するヘッドラインはこの 2 大問題に何らかの関わりがある動きで占拠されてきた。

今後も、この 2 大要因の動きが極めて大きな重要性を持ち続け、世界の関心を集めていく可能性は高い。しかし、それと同時に、新たな注目すべき動きが静かに、しかし重要な意味を持ちながら、国際エネルギー市場において進行していくのではないかと、筆者は感じている。それは、天然ガス需要の拡大と市場・需給環境の変化、という問題である。

もともと、天然ガスに関しては、2010 年 11 月に発表された国際エネルギー機関の「World Energy Outlook 2010」において、「黄金時代」の到来が言及されるなど、国際エネルギー市場における存在感の高まりが実感されていた。その背景には、米国における「シェールガス革命」があり、米国のみならず世界全体での非在来型ガス資源の豊富な資源量への期待の高まり、などもあった。しかし、中東・北アフリカ情勢緊迫化と国際石油市場の不安定化懸念、その中での原油価格の大幅な高騰、特に米国における（高止まりする）原油価格と（低位に止まる）天然ガス価格の乖離、そしてさらには、福島第 1 原子力発電所問題による原子力に対する厳しい世論の高まり、等の要因が相俟って、ガスへの期待がさらに加速化される方向で変化が生じつつあるのではないかと、と思われるのである。

もちろん、新情勢下での国際エネルギー市場においては、まだ今後の展開はあまりに不透明であり、様々な不透明要素の展開次第で、今後の世界のエネルギー需給構造全体が現時点で予見できるものと比較して様変わりしていく可能性は大きい。また、複雑化するエネルギー安全保障問題や温暖化問題、そしてその中での経済成長の維持等のバランスの取れた解決策を模索していく上では、全ての有用なオプションを取っていくことが求められ、省エネルギーの強化、太陽光や風力に代表される再生可能エネルギーの利用拡大、先進技術を活用した石炭の有効・高度利用、利便性・経済性の優れるエネルギーとしての石油の

高効率利用、そして安全性確保と信頼回復を前提とした原子力利用など、全てが重要な課題である。しかし、その中でも、現在の国際エネルギー・環境情勢と、そして今後世界全体として相当量の増加が不可避であるエネルギー需要を満たしていくに足る、有意な量の貢献が可能なエネルギーとして、ガスへの期待が大きく膨らむことは間違いないであろう。

具体的に見ると、例えば、短期的な観点でも、ガスの需要拡大が予想される分野がわれわれの目の前に存在している。すなわち、今後の電力供給対応として、本年の日本における天然ガス、ひいては LNG 需要が相当程度、堅く見積もっても数百万トンのオーダーで拡大することはほぼ確実と思われる。今後、夏場に向けて増大する電力需要に対応して、震災によって失われた発電能力をカバーし、電力供給を拡大する必要に日本は迫られているが、その発電増分の太宗は石油および LNG 火力発電の増加に依存することとなる。そして、その中でも、特に LNG 火力の果たす役割は相当に大きくなるのではないかと。ちなみに、この点は、2007 年に発生した中越地震によって停止した柏崎刈羽原子力発電所を補うため増加した火力発電のうち、石油がより大きな役割を果たしたことと対照的な動きとなる。その違いの原因は、LNG 火力の設備能力そのものの石油火力対比での大きさ、高騰する原油価格に対して経済性を有する LNG 価格、クリーンな化石燃料としての LNG の優れた特性、などが影響している。

増大する LNG 需要に対して世界の市場はどう反応するのか、この点が次に注目されるが、現時点で全体として十分な供給力を有する世界の LNG 市場はこの需要増大を吸収しうるのではないかと、が筆者の答えとなる。しかし、大幅な需要増大は、全体としての需給バランスを徐々に変化させていく要因にもなる。また、よりミクロ的に見れば、需要拡大に対するラストリゾートとしての LNG スポット市場がどのような需給環境となるか、その価格動向はどうか、は大いに注目して行く必要がある。

また、より中長期的に世界のガス市場がどう発展・変化していくのか、これも新情勢下において問われていく大きな問題である。先述したとおり、国際エネルギー市場においては、様々なシナリオ・可能性が考えられるが、新情勢下において、天然ガス需要が世界の代表的な予測機関などにおいてこれまでに想定されてきた規模より大きく拡大する将来像に着目する必要は高い。その将来像において、世界のガスの需給バランスはどうか、その需給バランスの中でガスは他の競合するエネルギーに対して経済性の面で優位性を確保していくのか、世界のエネルギーの中でより大きな役割を果たす天然ガスに関して、3 大市場（欧・米・アジア）の融合・統合は進むのか、など、重要な問題・課題が多く存在する。2011 年において、これから世界のエネルギー需給バランスや長期見通しを行っていく際には、新情勢下における天然ガスの問題は、非常に重要なトピックになることは不可避であろう。筆者も、今後、この問題に関する情報収集・分析を深め、発信を行う所存である。

以上

お問合せ : report@tky.iej.or.jp